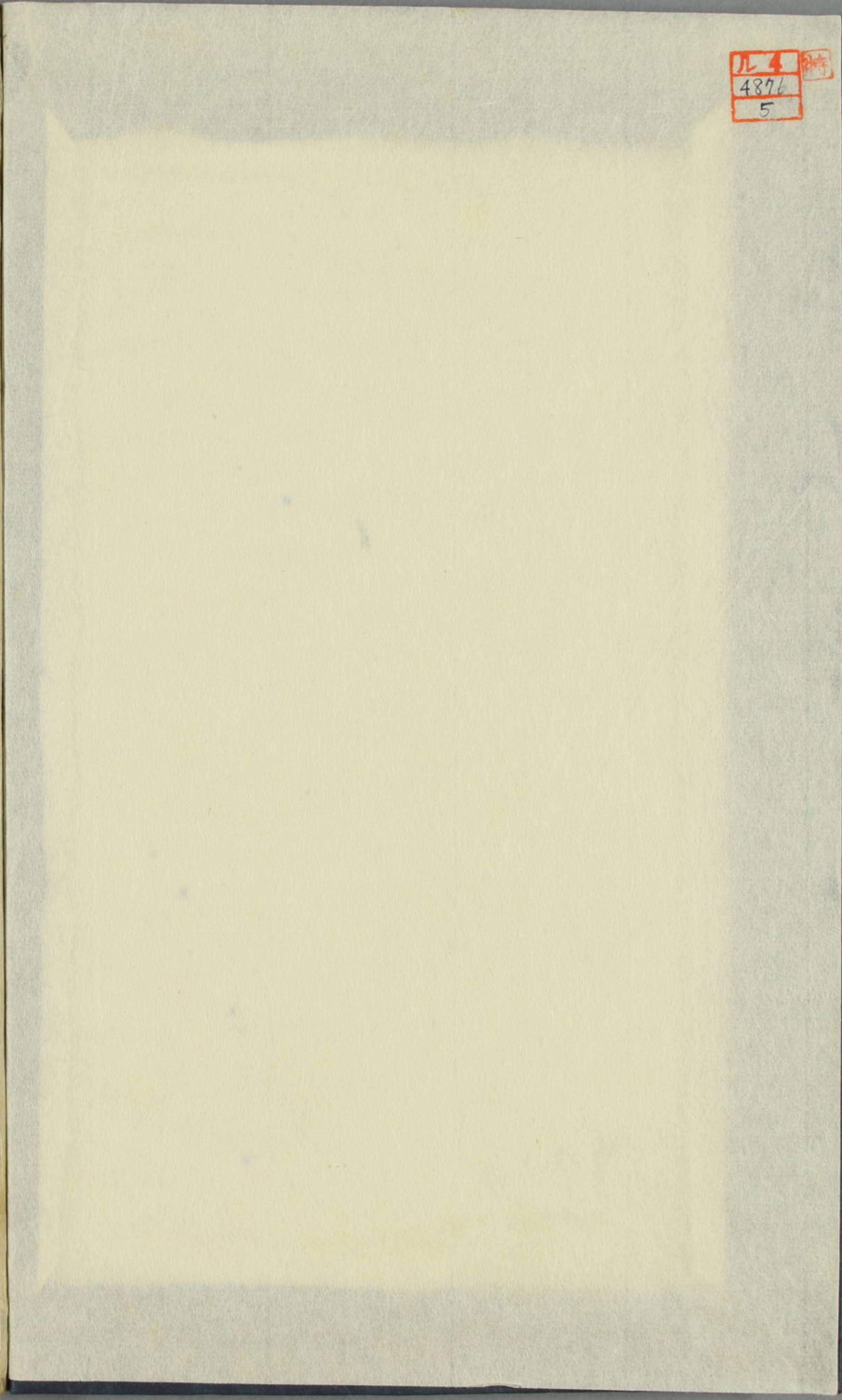
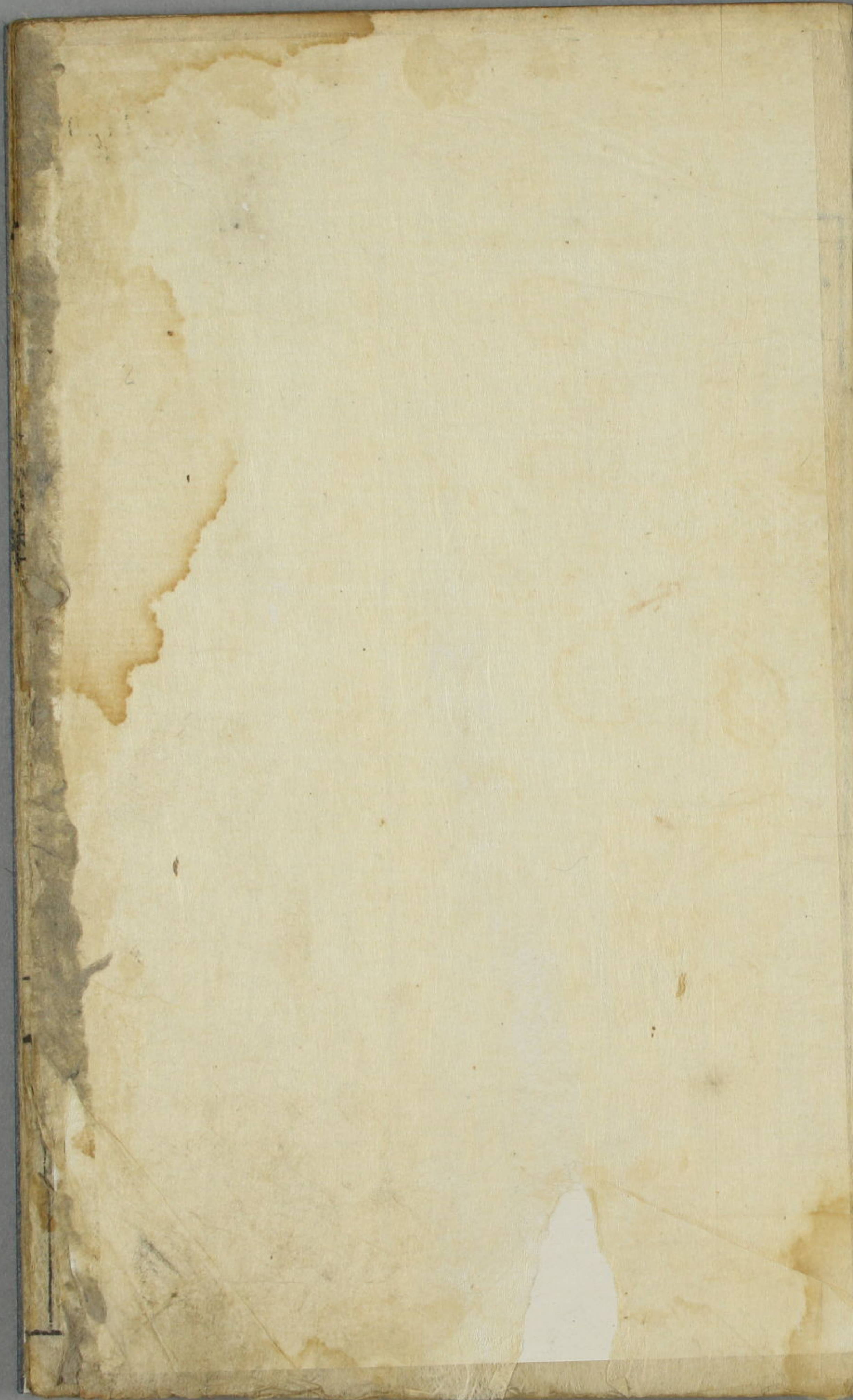


特別  
4  
4876  
5





4  
4876  
5

特  
1150  
6



京書書身六目錄

毫宕 付松尾  
 雄 付松尾  
 清妙 付松尾  
 小倉山 付松尾  
 釈也堂 付松尾  
 天孫 付松尾  
 野乃 付松尾  
 大井川 付松尾  
 嵐山 付松尾  
 法瑞寺 付松尾

松尾  
 梅  
 春

付葉柳







上紀の朝臣等國乃子に言傳ふる人あり。播磨の  
紀伊守を以て大帥とす。密奏とす。け。水部のら。先  
入をありて。海軍のら。多難乃ら。は。よりりて。十  
二。は。かられ。ざり。たる。い。づ。の。母。ら。そ。や。ま。海  
軍。後。乃。后。と。す。そ。の。い。ひ。お。の。の。か。と。い。ひ。に  
た。ま。は。わ。ん。負。就。二。年。二。月。一。日。た。ま。り。と。い。ふ。  
十一。その。ま。の。ん。た。ん。と。い。ふ。あり。す。か。ら。ら  
あ。い。こ。の。ま。の。場。と。い。ふ。

ありと。い。は。あ。れ。と。い。ふ。人。夫。物。を  
鼻。と。い。は。い。ふ。ま。の。い。

い。は。は。い。と。い。は。も。の。大。難。を。の。ぐ。た。ま。り。を  
い。つ。ま。り。あり。と。い。ふ。い。ま。り。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

ひ。が。い。と。い。は。播。磨。や。花。よ。勝。軍。



高権

あいねの乃清乃あんのつとてははたし入るま  
 らをあひてあんなのわうととめ神様  
 とあづけられありまほりんぐと人ひま  
 入さいらりけりかしくけあぐあはははは  
 とつとありつひは乃海とあつと二月  
 一日より女をとまのりありお祭のははやらん  
 病むとあおまや大流たつお山  
 由このあまお化屋はたすし倍あつと  
 いさつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 久しからんあつとあつとあつとあつとあつと

たけりお



あり。どりのおひ明<sup>あき</sup>と人<sup>ひと</sup>とせらけしあめりど  
人<sup>ひと</sup>は天<sup>あま</sup>乃<sup>の</sup>らる<sup>らる</sup>とありしとれ。も日<sup>ひ</sup>大明<sup>だいめい</sup>神<sup>かみ</sup>と  
先<sup>ま</sup>さつたたまひし。え又<sup>また</sup>茶<sup>ちや</sup>付<sup>つ</sup>どりの不<sup>ふ</sup>乃<sup>の</sup>る<sup>る</sup>  
あれハ

たまりりしどりのおの茶<sup>ちや</sup>いともれり  
それやうはらりそくはるらん







このあつてはなほふふ家者一けるふふ又かいたと  
ぢとといふ人のたはありしとあつていふいふい  
ふりあつていふ人のたはありしとあつていふい  
今この人のたはありしとあつていふい

極名の類とありしとあつていふい

あつていふいふいふいふいふい

又遊入の撰書よまこつれぬら申おのひあつて

撰書の花の遊はよまのひあつて

あつていふいふいふいふいふい

あつていふいふいふいふいふい

あつていふいふいふい

あつていふいふいふい

あつていふいふいふいふい

あつていふいふいふいふい

あつていふいふいふいふい

あつていふいふいふいふい

あつていふいふいふいふい



稲刈り

秋の稲刈りの天倉のついでありし  
 入夜ありてびらめいふまがつて  
 きん乃の像をつてくまきりて  
 ちげ。自他とあつた免ささつて  
 海もとくまげ。きん乃とらんら  
 むの西月拭く  
 秋の稲刈り  
 このあらしの廣海とくまげあり  
 西のあらしのあまのあまのあま  
 きん乃のあまのあまのあまのあま

あまこいあまこいばらにあり月の光はすてのうーと  
びまら唐澤の月とらるんはの西へ君て東  
のふら出る月のあまこいふらふらふらふらふら  
ぐれゆらあり

任人しあまこい月の林をみれん

月のひらりしうひらりふらふらふらふらふら

月のことあまこい月の地を教

唐澤のつけのつこまみ折つけ

こしらしあまこいまみぬと流 為教

又は唐のふみはみ智乃み集をいれん

ゆらゆらしあまこいあまこいあまこいあまこい

あまこいあまこいあまこいあまこいあまこい

あまこいあまこいあまこいあまこいあまこい

あまこいあまこいあまこいあまこいあまこい

あまこいあまこいあまこいあまこいあまこい

あまこいあまこいあまこいあまこいあまこい

あまこいあまこいあまこいあまこいあまこい

あまこいあまこいあまこいあまこいあまこい











の  
え



六  
卷

三  
四

なしく免子りあひいひいしむしむし  
くどまりうしむしむしむしむしむしむし

野のまやつかひ何ふの仔細梅

大井川



六巻

七

大井川

遊喜の市村大井川より舟乗る日

坂上是則

かげとみ今うもものりちか波乃庵うもわおやまん

業平船屋

大井川より舟乗る日

忠次

名くはあふあうり大井川志んくうりお茶や

貴く

大井川の舟よこしめういばいゆこわいし

くもてあうりお小船乃大井川

嵐

つらき一帯のまくらりつらりつらりれああり  
うれいなるうらりの口社にけりあをせぬ  
くさああり

ねんせいの

あはれ

大井川あつたあつたあつたあつた

嵐乃らのものちりあつたあ

あつたあつたあつたあつた

わやこのものあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

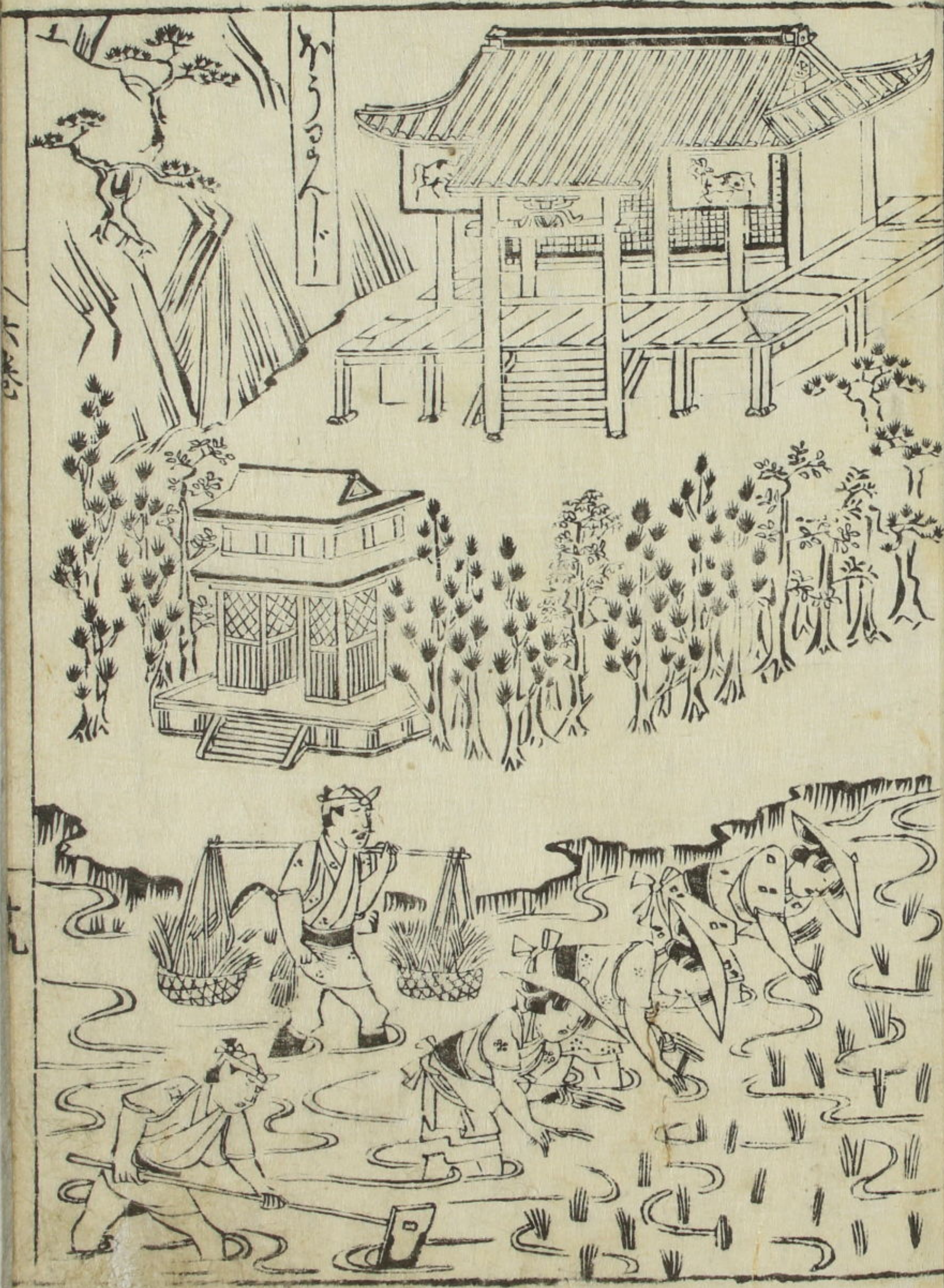
あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ





そのまゝとあつらふらふらそまづりなまらふ  
 りんれどあつらふらふらまこらうそまづりがふ  
 りそれりまらふらあり

五七  
 歌やららあまらむらひらびらおま







じめのこゝろ

あつきのせしつていふことかづひのこきせり  
 ちげんたかぬありきんせきせり  
 物かすたきり指太のあき  
 白骨一巻のりりそのらみひりて  
 こそまりのありそのあきりけて一巻のひ  
 又巻のえりあり

まじり梅氏と印しき

たうまら



秦

ひしこのころは、魏はありありとゆるり  
豊はしつたが、この唐はさしほもあり。智恵を  
みは用明て、守りの法はあり。じつや乃り  
くして、清きんたや、ありしゆのじつや乃  
白子しつたが、めしほく。又しつたが、  
まして、八人の時、書きしつたが、ありし物  
とりしつたが、たしつたが、ありし物  
八年ののしつたが、たしつたが、ありし物  
くして、魏國のしつたが、秦氏のしつたが、ありし物  
ま風はしつたが、しつたが、ありし物

としまは、めりしつたが、ありし物  
けりしつたが、たしつたが、ありし物  
まあ、しつたが、たしつたが、ありし物  
秦氏のしつたが、しつたが、ありし物  
ま子しつたが、しつたが、ありし物  
ありしつたが、しつたが、ありし物  
そしつたが、しつたが、ありし物  
わんしつたが、しつたが、ありし物

命門とあしつたが、しつたが、ありし物  
このしつたが、しつたが、ありし物



うづまの

神風とてやうしつ乃海波なく。洲のうら  
 め津代あれども乃おまふ所は横よりの見  
 とふるもそは非りたる人しとあつさりあつそ  
 たる一葉のよ。京の二葉と。丁  
 一葉一葉とたたりして。朝乃やりのたどる  
 ぬら。まのかり見わたしの。金の心も石  
 葉もひしひとねむ。玉のつらなるひくわとを  
 つひのしと。つひのしと。つひのしと。つひのしと。  
 見づく。つひのしと。つひのしと。つひのしと。  
 つひのしと。つひのしと。つひのしと。つひのしと。





R

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10



